

平成31年度
京都大学大学院人間・環境学研究科
博士後期課程編入学生特別選抜募集要項

(趣旨)

京都大学大学院人間・環境学研究科は、修士の学位（またはそれに相当する学位）を取得後一定期間（通算2年以上）の職業経験を有し、より高度な知識や技能を獲得して博士学位の取得を目指す者を対象とした博士後期課程編入学に関する特別選抜を実施する。

大学院人間・環境学研究科の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指す。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目的とする。

共生人間学専攻

共生人間学専攻では、「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探求しつつ、現代社会の具体的諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

共生文明学専攻

共生文明学専攻では、共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

相関環境学専攻

相関環境学専攻では、人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

○専攻及び講座名

共生人間学専攻

人間社会論講座 思想文化論講座 認知・行動科学講座 数理科学講座 言語科学講座
外国語教育論講座

共生文明学専攻

現代文明論講座 比較文明論講座 文化・地域環境論講座 歴史文化社会論講座

相関環境学専攻

共生社会環境論講座 分子・生命環境論講座 自然環境動態論講座 物質相関論講座

○指導課程区分

本研究科が募集対象とする指導課程には、次の2種の区分がある。(詳細：5頁)

課程博士 A 所定の博士後期課程

課程博士 B 特別に設けた課程（博士前期課程・修士課程修了後も、引き続き社会人として3年以上研究を継続し、本研究科の研究目的に沿った研究業績を既に発表している者を対象とする。）

注意：入学願書所定の指導区分欄は、指導を希望する教員と事前に相談のうえ記入すること。

1. 募集人員（平成31年4月入学）

共生人間学専攻 若干名
共生文明学専攻 若干名
相関環境学専攻 若干名

2. 出願資格—以下の(1)、(2)の条件を満たす者

(1)出願時において、次のいずれかの資格を有する者

- ①日本または外国の大学の大学院修士課程を修了し、日本の大学の修士またはそれに相当する学位を授与された者
- ②日本の大学における修業年限が6年の課程(医学、歯学、薬学または獣医学を履修する課程に限る。)を卒業し、修士論文に相当する研究論文を発表している者

(2)入学時において、(1)①または(1)②に定める学位を取得後通算2年以上の職業経験を有する見込みの者

*** 出願資格(1)②により出願を希望する者は、出願に先立ち、出願資格の審査を行うので、申請に必要な書類を平成30年6月29日(金)までに本研究科大学院掛へ請求・入手し、関係する証明書を添えて大学院掛へ書留便で提出すること。(平成30年7月6日(金)午後5時(必着))**

3. 出願書類等

下記の(1)～(7)の出願書類を入れた所定封筒(願書等の入っていた若草色封筒)を、(8)の論文が入る大きさの封筒又は小包に同封し、必ず書留便で郵送すること。

- (1) 入学願書 所定用紙(4枚)によること。記入にあたり願書裏面の注意事項を熟読のこと。
- (2) 写真票・受験票 上半身脱帽正面向きで、出願前3か月以内に撮影した写真(縦3cm×横2.4cm)を各票の所定の枠内に貼付すること。
- (3) 修了証明書及び成績証明書 出身大学学長又は研究科長が作成したもの。(外国の大学はコピーでも可。)
- (4) あて名票 所定用紙に合格通知等を受け取る住所・氏名・郵便番号を記入すること。
- (5) 入学検定料 **30,000円** 振込期日 平成30年7月23日(月)～平成30年8月8日(水)
(期限当日の収納印有効・期間外取扱不可)

※国費外国人留学生の場合、「国費外国人留学生証明書」をもって入学検定料に代える。
(振込方法)

- ① 本研究科所定の振込依頼書のご依頼人欄(3ヶ所)に出願者の氏名等を記入のうえ、切り離さずに金融機関(ゆうちょ銀行、郵便局を除く。)の窓口を持参して、入学検定料を振り込むこと。**ATM(現金自動預入支払機)やインターネット等での振込は不可。**
- ② 三井住友銀行の本・支店から振り込む場合の振込手数料は不要。その他の金融機関から振り込む場合の振込手数料は出願者負担。
- ③ 振り込み後、「入学検定料振込金受付証明書」及び「入学検定料振込金(兼手数料)受取書」に収納印が押印されていることを確認して受け取り、「入学検定料振込金受付証明書」(左半分)を「入学検定料振込金受付証明書貼付台紙」に貼付すること。**(収納印がない場合は願書を受理しない。)**「入学検定料振込金(兼手数料)受取書」(右半分・収入印紙貼付のもの)は、出願者が保管すること。

注 入学検定料を振り込んだが出願しなかった場合、または、誤って二重に振り込んだ場合は、本募集要項表紙掲記の大学院掛にその旨を申し出ること。

*平成23年3月に発生した東日本大震災ならびに平成28年4月に発生した熊本地震による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は入学検定料を免除することがあります。詳しくは、**6月29日(金)までに、本研究科大学院掛まで問い合わせてください。**

- (6) 受験票等送付用封筒 所定封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、372円分の切手を貼ること。
- (7) その他の添付書類(外国人留学生のみ)
 - ①履歴書(本研究科交付の所定用紙)、
 - ②日本に在留している者は市区町村長の発行する住民票又は在留カードの表・裏両面の写し(在留資格、在留期間が記載されたもの)を、海外在住の者はパスポートの写し(顔写真の貼付されたページと、在留期間が記載されたページ)を提出すること。
- (8) 論文
 - ア. 課程博士A 修士論文又はこれに代わる論文(コピーでも可)とその要約(4,000字程度を綴じたもの)をそれぞれ3部提出すること。
 - イ. 課程博士B 修士論文又はこれに代わる論文(コピーでも可)とその要約(4,000字程度を綴じたもの)及び主要な発表論文をそれぞれ3部提出すること。

4. 出願手続

郵送に限る。

出願者は、前記の出願書類を取り揃え、所定封筒と論文をまとめた封筒又は小包を必ず書留便で郵送すること。(直接持参しても、受け付けない。)

なお、出願書類に不備があれば受理しない場合がある。

5. 願書受理期間

平成30年8月3日(金)から平成30年8月8日(水)午後5時まで(必着)。ただし、平成30年8月6日(月)以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

6. 試験実施方法及び試験日程

- (1) 試験方法 提出した論文を中心として口頭発表及び試問(液晶プロジェクターは用意してあるので、利用可能)を行う。また、必要な場合は専門科目及び外国語等に関する筆答試験を行うことがある。その場合は、おって実施日程を連絡する。
- (2) 試験日程 **平成30年9月10日(月) 口頭発表及び試問：午前9時30分開始**
- (3) 試験場 京都大学大学院人間・環境学研究科棟(京都市左京区吉田二本松町)

7. 合格者発表

平成30年9月21日(金)午後1時頃、大学院人間・環境学研究科公用掲示板に発表する。

なお、受験者の便宜のため、合格者受験番号を一時的にホームページに記載するが、正式な発表は人間・環境学研究科公用掲示板で確認すること。(電話等による結果の問合せには応じない。)

合格者には9月28日(金)頃に合格通知書を簡易書留にて郵送する。

掲示の合格発表は受験番号のみで行うので、各自の合格した講座・担当教員については「合格通知書」により確認すること。(参考) 人間・環境学研究科ホームページ <http://www.h.kyoto-u.ac.jp/jinkan/>

8. 入学手続等

- (1) 入学料 282,000円 *入学時に改定されることがある。
- (2) 授業料 前期分267,900円(年額535,800円) *入学時、在学時に改定されることがある。希望により、前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができる。
- (3) 留意事項 入学料・授業料の納付期日及び入学手続日・場所・提出書類等については、合格通知書と併せて送付する。

9. 社会人入学

社会人で、大学院設置基準第14条特例(社会人学生の所属先における勤務条件、通学に要する時間等を考慮し、授業時間は、通常の授業時間帯及び通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に設ける)による教育の実施を希望する者は、入学願書提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する分野の担当教員に申し出て相談すること。

10. 注意事項

(1) 願書提出上の注意

ア. **出願しようとする者は、出願に先立ち自己の研究テーマによる受入れ及び研究指導の可否、必要な提出論文及び筆答試験の有無等の確認が必要なので、指導を希望する教員に必ず照会し、その指示に従うこと。**

イ. 出願手続後は、いかなる理由があっても書類記載事項の書き換えを認めない。

(2) 受験に関する注意

ア. 「試験室・控室」及び「口頭発表プログラム」については受験票と同時に郵送する。(8月31日頃郵送)

イ. **9月10日(月)**の試験当日は、必ず各自の試験開始時刻の30分前までに人間・環境学研究科棟控室にて待機すること。

遅刻者は入室を許可しないことがある。

ウ. 筆答試験が必要な場合の試験室への携帯品は、受験票の他、筆記具(黒鉛筆(シャープペンシル可)・消しゴム・鉛筆削り)・時計(時計機能だけのもの)に限る。

(3) 受験のために提出した論文は、返却しない。

(4) 入学手続に関する注意

ア. 出願時に大学院（研究生等を含む）に在学のまま受験した者は、入学手続時に所属長の発行する修了証明書又は退学証明書（様式随意。退学の日付は、平成31年3月31日以前であること。）を提出すること。

イ. 官公庁・会社等に在職のまま入学する者は、所属長の発行する入学承諾書（様式随意）を入学手続時に提出すること。

(5) 出願書類の郵送を希望するときは、受信場所及び受信者氏名を明記し、400円切手（第1種定型外料金）を貼った標準封筒角形2号（332mm×240mm）を同封し、京都大学大学院人間・環境学研究科大学院掛に「**博士後期課程編入学生特別選抜募集要項請求**」と**朱書**して申し込むこと。

(6) 障害等があり受験上若しくは修学にあたって配慮を必要とする者は、平成30年6月29日（金）までに、本研究科大学院掛へ申し出ること。

(7) 外国人留学生は、事務手続きに関して、最低限の日本語能力を必要とする。

11. 個人情報の取り扱いについて

出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報（成績判定に関する情報を含む）は、入学試験の実施および入学手続き等のため、「京都大学における個人情報の保護に関する規程」の定めるところにより取り扱う。

平成30年5月

京都大学大学院人間・環境学研究科
110jinkan_jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

○ 指導課程区分

本研究科では、博士として十分な学識を有し、かつ独自の独創的な見識に基づき自立して高度な研究を遂行しうる研究者と認められる者に対して、以下の区分と基準に従って博士の学位を授与する。

すなわち、

- ① 本研究科博士後期課程において必要な研究指導を受けたうえ所定の単位（10 単位以上）を修得し、博士論文を提出してその審査及び試験に合格した者、以下「博士論文指導課程：課程博士A」と記す。
- ② 学界、官界、業界の各分野において研究に従事し、これまでに十分な研究業績を有する者であって、かつ、本研究科においてより高度な学問的見地から、これまでの業績を学問体系としてまとめるための系統的な指導を受けたうえ所定の単位（8 単位以上）を修得し、博士論文としての総合論文を作成してその審査及び試験に合格した者、以下「博士論文指導課程：課程博士B」と記す。

この両者に、いずれも「博士（人間・環境学）」の学位を授与する。

先に述べたように、本研究科では、学生が博士論文に値する研究に速やかに取りかかり、完成しうるように系統的な指導を行えるようなカリキュラムを編成しているが、博士論文の審査にあたっては各候補者のこれまでの業績と本研究科での研究成果、そしてその将来性を十分評価し、また審査する。

以上の博士論文指導課程と入学及び学位授与等の手続をまとめると、つぎのようになる。

	① 課程博士 A	② 課程博士 B
入学資格又は論文博士の学位授与対象者に推薦される資格	大学院博士前期課程（修士課程）等修了又は修了見込の者（*1）	博士前期課程（修士課程）修了（*4）後も引き続き社会人として研究を継続し（*5）論文・著書の刊行を通じて本研究科の研究目的に沿った研究業績（*6）を既に発表している者 （上記の業績の審査と口頭発表及び試問によって入学可否の判定を行う。）
博士後期課程 1 年次	特別研究Ⅰ レポートⅠ	特別研究Ⅱ レポートⅡ
2 年次	特別研究Ⅱ レポートⅡ	特別演習、特別セミナー
3 年次	特別演習、特別セミナー 博士論文提出	博士論文としての総合論文提出
学位申請に必要な資格並びに審査基準	必要な研究指導を受けたうえ、「特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「特別演習」、「特別セミナー」を履修して所定の単位（10 単位以上）を修得し、博士論文を提出して、その審査及び試験に合格すること。（*3）	必要な研究指導を受けたうえ、「特別研究Ⅱ」、「特別演習」、「特別セミナー」を履修（*7）して所定の単位（8 単位以上）を修得し主な論文・著書の内容を基礎とした「総合論文」（*8）を博士論文として提出し、その審査と試験に合格すること。
標準修業年限	3 年	3 年
最短修業年限	2 年	1 年
	本学通則第 50 条第 5 項に基づいて、標準の 3 年の在学期間を短縮しうる者は、その学位論文がその研究分野全般の現状からみて、極めて優れた研究成果であることが明瞭である場合とする。	
学位授与	博士（人間・環境学）	

【留意事項】

- （*1） 入学希望者に対しては、修士論文等の審査及び口頭発表及び試問による入学可否の判定を行う。外国人留学生は、入学願書の提出に先立ち、勉学を希望する分野の担当教員に申し出て、学位修得に至るまでの詳細について、相談すること。
- （*2） 破線（---）で区切った区画は 1 年間にまとめて履修しうることを示す。
- （*3） 博士論文は、本研究科で学位授与のための博士論文の審査に付される。
- （*4） 本研究科以外（外国を含む）の博士前期課程（修士課程）を修了した者、あるいは博士前期課程修了者と同等あるいはそれ以上の学力を有していると本研究科において認める者であってもよい。
- （*5） 3 年以上継続していること。
- （*6） 共著者の同意、承諾を得たものであれば、共著の成果であってもよい。
- （*7） 現職に籍を置いたままで履修できるように、指導教員と相談すること。
- （*8） 「総合論文」とは、博士後期課程入学以前の論文又は、著書の内容を基礎とし、本研究科での研究業績をまとめた単著の論文で、博士学位申請論文として取扱う。

下記の教員は、今回博士後期課程編入学生の受入を行いませんので注意して下さい。

共生人間学専攻

11. 人間社会論講座

- | | |
|--------------|------------|
| 111. 人間形成論分野 | 小山静子 |
| 112. 人間共生論分野 | *学生を募集しない。 |
| 114. 文化社会論分野 | 田邊玲子、松田英男 |

12. 思想文化論講座

- | | |
|--------------|------|
| 121. 人間存在論 | 安部 浩 |
| 122. 創造行為論分野 | 岡田温司 |
| 123. 文芸表象論 | 水野尚之 |

13. 認知・行動科学講座

- | | |
|--------------|------------|
| 132. 生理心理学分野 | *学生を募集しない。 |
|--------------|------------|

15. 言語科学講座

- | | |
|------------------|---------------------|
| 151. 言語情報科学分野 | 藤田耕司、谷口一美 |
| 152. 言語比較論分野 | 齋藤治之、服部文昭、河崎 靖、壇辻正剛 |
| 153. 言語情報システム論分野 | *学生を募集しない。 |

16. 外国語教育論講座

- | | |
|------------------|--------------|
| 161. 外国語教育論分野 | 藤田糸子 |
| 162. 言語教育研究開発論分野 | スチュワート、ティモシー |

共生文明学専攻

21. 現代文明論講座

- | | |
|--------------|-----------|
| 211. 文明構造論 | 江田憲治、大川 勇 |
| 213. 国際社会論分野 | 見平 典、齋藤嘉臣 |

23. 文化・地域環境論

- | | |
|--------------|------|
| 231. 文化人類学分野 | 田中雅一 |
| 233. 環境構成論 | 増井正哉 |
| 234. 文化遺産学分野 | 玉田芳英 |

24. 歴史文化社会論講座

- | | |
|----------------|-----------------|
| 241. 歴史社会論 | 元木泰雄 |
| 242. 東アジア文化論分野 | 須田千里、佐野 宏、長谷川千尋 |
| 243. 西欧文化論分野 | 水野眞理、高谷 修 |

相関環境学専攻

31. 共生社会環境論講座

- | | |
|----------------|-----------|
| 311. 共生社会環境論分野 | 浅野耕太、佐野 亘 |
|----------------|-----------|

33. 自然環境動態論講座

- | | |
|----------------|------------|
| 332. 地球環境動態論分野 | 鎌田浩毅、小木曾 哲 |
|----------------|------------|

34. 物質相関論講座

- | | |
|----------------|------|
| 342. 物質機能相関論分野 | 加藤立久 |
|----------------|------|